

社 会

(3) 社会

観 点	着 眼 点
<p>1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫</p>	<p>(1) 社会的な見方・考え方を働かせながら、学習の問題を追究・解決する学習活動など、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた工夫</p> <p>(2) 社会的事象の特色や意味、社会に見られる課題などについて、多角的に考えたことや選択・判断したことを論理的に説明したり、立場や根拠を明確にして議論したりするなど、言語活動に関わる学習のための工夫</p> <p>(3) ・情報活用能力の育成に向け、学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して、情報の収集やまとめなどを行うための工夫 ・地図帳を活用することにより、位置や空間的な広がりに着目して社会的事象を捉える見方・考え方を養う工夫</p> <p>(4) 学習したことを振り返り、学習成果を吟味したり新たな問いを見出したりすることや、さらに学んだことを基に自らの生活を見つめたり社会生活に向けて生かしたりすることができるような工夫</p> <p>(5) 博物館や資料館などの施設の活用を図るとともに、身近な地域及び国土の遺跡や文化財などについての調査活動を取り入れるための工夫</p> <p>(6) 単元などを通じた学習過程の中で動機付けや方向付けを重視するとともに、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童の表現を促すための工夫</p> <p>(7) 他の教科等や中学校との関連を図った学習活動を充実するための工夫</p>
<p>2 使用上の便宜</p>	<p>(1) 内容別配当の分量</p> <p>(2) 教材・資料等の分量</p> <p>(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする生徒への配慮、編集上の工夫 等</p>
<p>3 その他</p>	<p>・具体的な社会的事象の取り上げ方について</p>

1 学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
<p>2 東書</p>	<p>●着眼点(1)について 見開きの適所に、キャラクターが目印の「見方・考え方」の囲みがあり、「空間」「時間」「相互関係」の3つの視点と、方法(考え方)を合わせた4種類が使い分けられている。また、各学年に、「社会科の学習の進め方」のページがあり、問題解決的な学習の過程(「つかむ」「調べる」「まとめる」「いかす」)が示され、見通しをもって学習を進められるよう工夫されている。〔例〕4年(P18~19)</p> <p>●着眼点(2)について 「まとめる」場面では、文章でまとめる、発表する、話し合うなどの言語活動を重視し、習得した知識を定着させ、思考力・判断力・表現力を育成できるよう工夫されている。また、「いかす」場面では、第4学年に、ごみを減らすために自分たちにできることを話し合う活動が設定されている。〔例〕3年(P52~53)、4年(P68~69)</p> <p>●着眼点(3)について ・学習に役立てられるよう、見開きの右下の位置に二次元コードが配置されている。〔例〕3年(P23) ・各巻で「まなび方コーナー」を随所に掲載し、地図帳、インターネット、図書館などの活用や、資料の収集の仕方が例示されており、主体的な学びを促すよう工夫されている。〔例〕4年(P8~9)、6年政治・国際編(P99)</p>	<p>●着眼点(4)について 学習成果を「まとめる」場面を単元の終末に設けており、学習問題をもとに、自ら調べたり他の児童と考えたりしたことを新聞や4コマCM等で表現する活動が設定され、自らの生活へつながるよう工夫されている。〔例〕3年(P82~83)、4年(P155)</p> <p>●着眼点(5)について 第3学年では、地域の施設が写真やイラストで示されるとともに、調査での視点が示され、活動の充実が図られるよう工夫されている。第6学年では、「歴史博物館に行こう」と題して、見学のポイントが「観察する」「考える」「体験する」の3点で紹介されている。〔例〕3年(P58~59、P73~74)、6年歴史編(P6~7)</p> <p>●着眼点(6)について 自分の生活と比較し、より具体的に社会的事象について理解できるよう、単元の導入では、児童にとって生活に身近な様子等を取り上げ、自分の生活と重ねて捉えることができるよう工夫されている。〔例〕4年(P34)、5年下(P2)</p> <p>●着眼点(7)について ・他教科の学習内容と関連する箇所では、「教科関連マーク」と学習内容がページの欄外に示されている。また、社会科の教科特性に応じて道徳性を養うことができるよう、人間尊重や公共の精神、生命や自然への畏敬の念を育む教材が取り上げられている。〔例〕3年(P100~101)、4年(P72) 6年歴史編(P99) ・中学校での学習への関心を高め、小学校と中学校の接続に活用できるよう中学校社会科の学習内容が掲載されている。〔例〕6年政治・国際編(P110~111)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
17 教出	<p>●着眼点(1)について 各学年の巻頭で、「社会科で使う見方・考え方」として、社会科の学習で課題解決に向けて構想する際の視点や方法が示されている。また、次のページには「社会科の学習の進め方」として「つかむ」「調べる」「まとめる」という3つの場面をくり返しながらか学習を進めていくことを示し、問題解決的な学習について、見通しをもって進められるよう工夫されている。〔例〕3年(P5、P6～7)</p> <p>●着眼点(2)について 「〇〇さんの話」というインタビュー記事が掲載されており、行政や地域など多様な観点から取り上げることで、話し合い活動等を通して多角的・多面的な視点が育つよう工夫されている。〔例〕3年「工場ではたらく人と仕事」(P68～81)、4年「地震にそなえるまちづくり」(P82～97)</p> <p>●着眼点(3)について ・各学年の巻頭に「タブレット型コンピューターを生かそう」のページがあり、多様な活用例が、社会科の学習と関連づけて紹介されている。また、随所に二次元コードが示されており、学習に役立てられるよう工夫されている。 〔例〕3年(P2～3) ・関連図書、国語辞典、百科事典、地図帳、インターネット、聞き取りインタビュー等、様々なツールによる情報収集の方法や、効果的なまとめ方等が掲載されており、児童が主体的に調べ学習を進めていく際の手引きとなるよう工夫されている。〔例〕3年(P164～175)</p>	<p>●着眼点(4)について 単元の終末に「もっと知りたい」と題して、既習事項に関連するものや時事問題など発展的なトピックを取り扱ったものが掲載されており、今の自分のくらしや社会の様子とのつながりを考えることができるよう工夫されている。〔例〕6年(P167)</p> <p>●着眼点(5)について 歴史学習に必要な具体的資料を得るために効果的な遺跡や考古学博物館の見学に関わるページが設けられ、「事前学習の内容」「現地での見学の視点」「調べ方」といった学びの手引きが示されている。〔例〕6年「歴史の学び方をナビゲーション！」(P72～73)</p> <p>●着眼点(6)について 単元の学習を振り返り、自分が最も大切だと考えるキーワードをもとに標語を作り伝え合う活動等、児童の学びの深まりや表現力の向上につながるよう工夫されている。〔例〕3年(P111)</p> <p>●着眼点(7)について ・各学年の巻頭に、社会科と他の教科等との学習連携を示したイメージ図「他の教科などのかかわり」が掲載されていて、児童が横断的に学習を進めていく意識がもてるよう工夫されている。〔例〕3年(P5) ・中学校社会科への接続という観点から第6学年の学習内容を振り返るページを設け、中学校での学習への関心が高まるよう工夫されている。 〔例〕6年(P290～291)</p>

発行者の 番号・略称	学習指導要領に定める教科の目標を達成するための工夫	
116 日文	<p>●着眼点(1)について 社会的な見方・考え方の3つの視点(空間、時間、関係)と方法を具体的に示す「見方・考え方」コーナーが随所に設けられている。また、各学年の巻頭に「社会科の学習の進め方」のページがあり、学習問題を発見、追究・解決し、よりよい未来をつくる力を身につけるといふ学習の流れが、図を用いて示されている。〔例〕3年(P2～3、P7、P27)</p> <p>●着眼点(2)について 随所に「学び方・調べ方コーナー」、「やってみようコーナー」、「キーワード」等が設けられ、言語活動を充実させる手だてが工夫されている。また、単元末等では、対話的な学びを示す児童の話し合いが設定されている。〔例〕3年(P7、P40～41)</p> <p>●着眼点(3)について ・「学び方・調べ方コーナー」や「見方・考え方コーナー」等に二次元コードが示されており、学習に役立てられるよう工夫されている。〔例〕4年(P123、P125) ・全学年、巻頭の「学び方・調べ方コーナー」では、地図、カード、年表などのつくり方や、調査での聞き取りの仕方、資料の集め方、インターネットの使い方、調べたことや考えたことの発信の仕方などが示されており、情報活用能力の育成が図られるよう工夫されている。〔例〕3年(P7)、5年(P7)</p>	<p>●着眼点(4)について 単元末で、「さらに考えたい問題」についてカードにまとめ、質疑することで深め合う活動等、社会との関わりを意識させる活動例が示されている。〔例〕5年(P264～265)</p> <p>●着眼点(5)について 地図帳や地球儀の具体的な活用方法を示し、興味・関心をもって調べられるよう工夫されている。〔例〕3年(P158～159)、4年(P204～205)、5年(P10～19) また、役場等地域の施設や、各地に残されているさまざまな遺跡や文化財などを観察・見学したり、調査したりする活動が紹介されている。〔例〕3年(P8～41)、4年(P120～133)</p> <p>●着眼点(6)について 「学び方・調べ方コーナー」や「やってみようコーナー」では、課題や場面に応じて学習の見通しを立てられるよう工夫されている。話し合い、意見を出し合うことで考えが深まっていく様子が具体的な発言例を挙げて示されている。〔例〕5年(P191)</p> <p>●着眼点(7)について ・道徳の内容項目である礼儀や公德心などに関連して、「学び方・調べ方コーナー」で、他者との交流や公共の場での注意事項を具体的に示されている。 また、「未来につなげる～わたしたちのSDGs～」では、総合的な学習の時間と関連づけた学習内容が示されている。〔例〕3年(P49)、6年(P272～273) ・学年を通して学習したことや身についた力を振り返るとともに、中学校にむけての見通しがもてるように、中学校社会科について説明されている。〔例〕6年 P274～279)</p>

2 使用上の便宜

項目 発行者の 番号・略称	総 ページ	(1) 内容別配当の分量					(2) 教材・資料等の分量										
		地理的 環境と人々の生活	と現代 社会の仕 組みや働 き	歴史と 人々の生 活	その他	地図	統計 資料	年表	図 版資 料	文 献・読 み物資 料	イン タビ ュー	注 釈・用 語解 説	表 現活 動例	学 習の スキ ル	の二 次元 コー ドに 関す るも	三 重県 に関 する 記述	
2 東書	3年	144	32	76	22	14	46	12	9	320	0	22	37	24	22	39	—
	4年	172	60	62	36	14	60	16	10	446	5	42	61	44	16	42	—
	5年	264	98	142	△	24	104	106	12	698	25	58	100	79	23	65	○
	6年	280	△	100	162	22	78	39	32	912	76	18	107	94	19	57	○
1 7 教出	3年	180	38	82	32	28	44	13	4	367	14	62	10	68	21	41	—
	4年	218	72	86	46	16	63	35	13	445	15	75	34	88	19	62	○
	5年	264	92	148	△	24	81	134	13	697	37	78	36	55	23	44	○
	6年	300	△	112	170	18	69	52	36	784	106	27	26	70	24	65	○
1 1 6 日文	3年	170	36	84	30	20	61	20	2	390	8	54	26	36	33	94	○
	4年	216	56	90	50	20	82	26	9	568	47	69	49	46	23	103	—
	5年	292	104	170	△	18	89	161	3	740	34	68	57	53	19	178	○
	6年	292	△	94	178	20	78	65	40	709	49	29	94	61	11	190	○

(3) 造本上の特徴、特別な配慮を必要とする児童への配慮、編集上の工夫等

発行者の 番号・略称	
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮し、再生紙と植物油インキで印刷されている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・全ての児童の色覚特性に適合するようデザインされている。 ・児童の負担に配慮し、軽量の紙が使用されている。 ・5年、6年の教科書を2冊に分けられている。 ・鮮やかな挿絵、写真などの印刷で資料の読み取りに向け工夫されている。
1 7 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・環境への配慮から、再生紙と植物油インキが使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・色覚の個人差に配慮したカラーユニバーサルデザインが使用されている。 ・表紙に抗菌加工が施されている。 ・教科書に出てくる登場人物の中に多様な子どもを登場させ、多様性について配慮されている。 ・白黒写真を人工的に着色し、色鮮やかな画像資料にすることで、児童の関心を高めるよう工夫されている。
1 1 6 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に配慮した再生紙と植物油インキが使用されている。 ・ユニバーサルデザインフォントが使用されている。 ・色覚の個人差に配慮したカラーユニバーサルデザインが使用されている。 ・ページ下部を目次に対応するよう着色し、単元や年代が目立つよう工夫されている。 ・巻末にあるSDGsの目標シールを活用することで、学習内容がSDGsとどのような関わりがあるか考えを深められるよう工夫されている。 ・本文を「学習内容」、「学習活動」、「友達の発言」の3つに分けており、学習内容や学習方法が明確になるよう構成されている。

3 その他

発行者の 番号・略称	具体的な社会的事象の取り上げ方について
2 東書	<ul style="list-style-type: none"> ・世界文化遺産を学習するページでは紀伊山地の霊場と参詣道が紹介されており、独特な地形であることや仏教の修行場であったことが紹介されている。 ・6年政治・国際編の最後で、これまで学習してきたことをもとにして、SDGsの視点から自分たちにできることについて考えられるよう工夫されている。 ・領土に関わる内容では、北方領土、竹島、尖閣諸島は日本固有の領土であると明記されている。また、北方領土、竹島、尖閣諸島の現在の状況についてもそれぞれに説明されている。拉致問題については、北朝鮮から帰国した拉致被害者の写真とともに説明がされている。 ・主権者教育については、若い世代が政治に関心を持ち、参加することが期待されていることが説明されるとともに、選挙の際には税金の使い方に着目して代表者を選ぶなどの具体的な視点を紹介し、自分たちの生活と政治との関わりに興味を持てるよう工夫されている。
17 教出	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市を例にあげ、公害の教訓を発信する取組が紹介されており、持続可能な社会を歴史から考えさせるよう工夫されている。 ・持続可能な社会を実現するために、SDGsについて各学年で学ぶことに関連づけて考えることができるように、コーナーやページが設けられている。 ・領土に関わる内容では、北方領土、竹島、尖閣諸島は日本固有の領土であると明記されている。また、北方領土、竹島、尖閣諸島の現在の状況についてもそれぞれについて説明されている。さらに、日本は、平和的な解決に向けてねばり強く努力を続けていく必要があることが説明されている。拉致問題については、日本と北朝鮮の代表との話合いの様子が写真で紹介されており、その後の2002年に拉致被害者が帰国したことが説明されている。 ・主権者教育については、住民の意見をもとに、自分たちの住むまちの政治について考えた提案を「子ども議会」で話し合う活動を紹介するなど、主権者として政治に関心を持つことができるよう工夫がなされている。また、投票率に関する課題について言及されている。
116 日文	<ul style="list-style-type: none"> ・四日市市を例にあげ、市と小学校が連携して、公害を二度とおこさないように一人一人に何ができるかを考え行動する取組を行っていることや、三重県・四日市市・企業が連携し国際環境技術移転センター（アイセツ）を設立したことが紹介されている。 ・SDGsについて取り上げているページが単元の終わりなどに設けられるとともに、巻末のシールを使うことで考えを深められるよう工夫されている。 ・領土に関わる内容では、北方領土、竹島、尖閣諸島は日本固有の領土であると明記されている。また、北方領土、竹島、尖閣諸島の現在の状況についてもそれぞれに説明されている。さらに、領土問題は国民の生活にも影響する大切なことであると説明されている。拉致問題については、2002年の日本と北朝鮮の代表者による会議の様子が写真で紹介されており、現在も拉致問題の解決に向けた努力が続けられていることが説明されている。 ・主権者教育については、国の選挙だけでなく地方公共団体の選挙でも投票率の低さが問題になっていることを取り上げ、選挙は国民主権を支える大切なしくみであることや、若者の投票率向上を目指して、学校で模擬投票が行われていることが説明されている。